

沖縄県立宮古病院

超音波診断装置

仕様書(A)

1			超音波診断装置本体
1	-	1	超音波診断装置本体 1式の概要に関して以下の仕様を満たすこと。
1	-	1 - 1	奥行き844mm、幅564mm以下であること。
1	-	1 - 2	超音波RAWデータ構造のフルデジタルシステムであること。
1	-	1 - 3	DVDドライブを有すること。
1	-	1 - 4	データベースは本体に保存したまま画像だけを外部メディアに移動でき、メディアが挿入（または接続）されている状態で患者を選択するとインストール不要で検査を表示できること。
1	-	1 - 5	ソフトウェアビームフォーミング技術を採用し、フルフォーカスを実現していること。
1	-	1 - 6	高感度のカラーモードを搭載していること。
1	-	1 - 7	ストレインエラストグラフィーに対応していること。
1	-	1 - 8	プログラム可能な検査ステップの自動アシストを可能とするスキャンアシスト機能を有すること。
1	-	1 - 9	同時2断面表示が可能であること。
1	-	1 - 10	同時3断面表示が可能であること。
1	-	1 - 11	ボリュームレンダリングで仮想光源を用いることで画像上に陰影を表現し、更なる立体的な画像表現が可能であること。また光源の位置も変更可能であること。
1	-	1 - 12	4Dカラー表示を2Dモニタ上で分かりやすくするため、画像に影と鏡面反射技術を使用し血流情報を立体的に表示可能であること。
1	-	1 - 13	ボリュームデータから左室容積・駆出率を自動計測できること。
1	-	1 - 14	ボリュームデータから僧帽弁の形態を半自動的に定量解析できること。
1	-	1 - 15	血流の運動情報をトラッキングすることにより血流パターンを画像化できること。
1	-	1 - 16	ドブラモードにおいて、心臓の血液の流速、圧較差、時間速度積分値、心筋の移動速度などを自動計測できること。
1	-	1 - 17	ドブラ波形計測において‘measure’を押すだけでその波形の計測項目部位が自動で選択される機能を有すること。
1	-	1 - 18	心尖3断面それぞれの断面上で自動指定または3点指定することにより自動トラッキングし心筋収縮の解析結果をブルズアイ表示が可能であること。
1	-	1 - 19	1-1-18は自動ROI設定がされ、Auto EFも同時計算されること。また、他社DICOM画像からの解析が可能であること。
1	-	1 - 20	右心室の縦方向グローバルストレイン、自由壁ストレイン、セグメンタルストレインの定量データを算出できること。
1	-	1 - 21	左心房の縦方向のグローバルストレインの定量的データを算出できること。また、LAボリュームと心腔のEmptying Rateも算出可能であること。
1	-	1 - 22	2DモードにおいてPLAX画像から自動で中隔厚、左室内腔、左室後壁厚を測定し容量、駆出率を算出できること。
1	-	1 - 23	任意のフレーム上で頸動脈内膜中膜複合体厚（IMT）を自動計測できること。
1	-	1 - 24	既存サーバーや電子カルテシステム等とMWM連携、DICOM Storage接続をすること。
2			プローブ
2	-	1	心臓用3次元電子セクタ 1式は以下を満たすこと。
2	-	1 - 1	周波数帯域は、1 - 6 MHz以上であること。
2	-	1 - 2	視野角は90° 以上であること。
2	-	2	高周波心臓用電子セクタは以下を満たすこと。
2	-	2 - 1	周波数帯域は、2 - 8 MHz以上であること。
2	-	2 - 2	視野角は115° 以上であること。
2	-	3	血管用リニア 1式は以下を満たすこと。
2	-	3 - 1	周波数帯域は、2 - 10 MHz以上であること。
2	-	3 - 2	視野幅45mm以上であること。
2	-	4	3次元経食道プローブは以下を満たすこと。
2	-	4 - 1	周波数帯域は、3 - 8 MHz以上であること。
2	-	4 - 2	視野角は90° 以上であること。
3			レポートシステムとのSR連携ができ、令和8年度以降に予定している電子カルテシステム更新時にSR連携を実現できること。